

住民の福祉・教育・くらしを守り 災害から命を守る鈴鹿市政を

東北関東大震災・福島原発事故

被災者救援、復興支援とともに

わが街の防災を見直そう!!

未曾有の大災害、いまだに被害の全体が明らかにならない、その上に原発事故の「人災」。現地で苦難に直面する皆さんに、支援の輪を広げましょう。

そして、「東海・東南海地震がこんな規模で起こったら?」「県・市の防災計画は万全か?」を、改めて真剣に見直すことが求められています。



消防防災に もっとマンパワーを

震災や水害、火災などに、まず出動するのが消防署。しかし鈴鹿市は消防職員が不足しています。

日本共産党市議団は、消防車1台に5人乗車すべきところを、2人、3人しか乗らずに出動している実態を示し、大幅な人員増を求めました(07年)。人員は07年188人から11年195人、12年目標200人と増えています。消防庁の「整備指針」の基準は300人です。ペースを上げてマンパワーを充実させることを求めます。

日本共産党は提案します

- ◎市防災計画を見直し、M9・震度7に対応した計画に。
- ◎住宅耐震補強を、もっと市民が利用しやすい制度に。
- ◎各地避難所の指定と誘導方法を見直す。
- ◎市の公用車すべてに放送機器を付ける。
- ◎旧神戸中学校舎を壊さずに、大震災被災者に提供することを表明する。
- ◎避難の長期化に対応した物資の提供を市民に呼びかける。

ふだんから市民にやさしい
行政を心がけていてこそ

いざという時、市民の命と暮らしを守る力ができます

- 高くて払えない国保税を、一人1万円引き下げます。

昨年10%も増税され、4人家族・年収300万円で年額35万円と、暮らしを圧迫しています。一般会計から5億円を国保に繰り入れて、市民の負担をへらします。

- 子どもの医療費無料化を、中学校卒業にまで広げます。

せめて義務教育までは、お金の心配なくお医者さんにかかれるようにと、すでに亀山市は中学生まで無料にしています。鈴鹿市でも実現させましょう。

- 住宅リフォームへの助成(費用の1割、限度額20万円)制度をつくります。

地元の業者、職人さんに工事をしてもらえば市が助成する制度が、全国各地で進められ、大評判です。不況にあえぐ業者さんの「仕事起こし」になり、地域経済への波及効果は予算の15倍、耐震防災にも役立ちます。

生活相談など、お気軽にご連絡下さい



市議会議員
石田 秀三

☎371-0423



市議会議員
森川 ヤスエ

☎384-3740



市民のねがいに正面から答える議会に

良いことも悪いことも「何でも賛成」では、チェック機能はたせない

鈴鹿市議会では、この4年間で市長提案の議案(予算、決算含む)が合計328件上程されましたが、すべて「原案可決」です。ほとんどの議員が、すべての議案に賛成というのが、鈴鹿市議会の実態です。これで行政をチェックする議会の役割が果たせるでしょうか。

共産党市議団は、全議案の12%、39議

案に反対、9割ほどの議案には賛成の態度を取りました。反対した議案は、国保税の値上げや不燃物処理場の民間委託、医療科学大薬学部への8億円もの助成など、どれも市民の立場から見て賛成できないものです。市議団は毎回、本会議での討論に立ち、議案の問題点などをはっきり指摘し、改善を提案しています。

切実な市民の声、通らない市議会

一方で、市民から出された請願が、十分に審議されることなく「不採択」にされています(別表)。「30人学級」の請願は四日市市で、「所得税法」の請願は県議会で、自民、民主、公明など全会派が賛成して採択されたのに、鈴鹿市では多くの議員が反対して否決されました。

また、沢山の署名とともに出された「中学校給食」の請願は、いったん署名に応じた議員まで反対に回り、切実な市民の声は通りませんでした。

「がっかりしました。資料も見てくれない議員、ヤジをとばす議員もいて、初めて傍聴に行ったが、議会にも議員にもがっかりです。」(鈴鹿市に中学校給食を実現させる会ニュースより)

市長提出議案には何でも賛成するが、市民の願いはなかなか通さない市議会。これで本当の市民の代表と言えるでしょうか。

おかしいことはズバリ「おかしい」と指摘、改善を求める



日本共産党

■鈴鹿市議会での「不採択」となった、市民の請願

請願名	賛否の数	備考
25人下限条件を撤廃し、真の30人学級実現を求める請願	共産党など賛成13、反対17	四日市市議会では全会一致で採択された
鈴鹿市直営の中学校給食の早期実現を求める請願	共産党など賛成4、反対26	市民の署名約1万8千人が寄せられた
所得税法56条(家族労働を認めない)の見直しを求める請願	共産党など賛成7、反対23	三重県議会では全会一致で意見書を議決した

市長が「退職金」を4年ごとに1900万円も受け取る、こんな特権的な制度はなくせと主張。また「生活保護不正支給事件」の穴埋めに、市補助金で運営する職員共済組合の積立金を4千万円も流用するなど、とんでもないと撤回を迫る。議会ではハッキリと問題を追及しているの

が日本共産党市議団です。肝心な時に、肝心なことを言えない議員でいいのでしょうか。相手が誰であろうと、市民の立場からシッカリもの言う議員が、市議会には必要です。日本共産党鈴鹿市議団は、市民の皆さんの期待にこたえて、全力をあげます。

